

## 3つの拠点整備

- 熊本地震での教訓を踏まえ、
- ・東側に、災害対策本部機能を備えた防災拠点「防災センター」
  - ・中央に、避難拠点となる防災公園として、総合体育館を含む「杉並木公園」
  - ・西側に、指定緊急避難場所と物資受入配送の拠点を兼ねた「光の森防災広場」
- の3つの拠点を整備し、町全体の防災力強化に取り組んできました。

町の地域防災計画では、これら3つの拠点だけでなく、地域の公民館などとの連携を強化し、在宅避難者を含め、誰もが安全・安心に避難できる基盤づくりを進めることとしています。

### 1 防災センター

庁舎被災の教訓から災害対策本部機能を備えた「防災センター」を整備しました。防災センターは、耐震性を備えるとともに、停電時でも72時間以上の電源確保が可能な非常用電源を備え、災害対応の中枢となる災害対策本部には、状況把握や情報発信機能を強化するとともに、自衛隊や他自治体からの応援部隊を受け入れるスペースを確保しました。また、防災備蓄倉庫はトラックバス(トラックの荷台と同じ高さのプラットフォーム)も設け、支援物資の積み込み・積み下ろしがスムーズに行えるようになっています。



### 2 杉並木公園

町の中心部に位置し大規模な面積を有する同公園を、各地域における避難場所の「核」として設定しています。公園内の総合体育館は、約850人を収容可能な町最大の避難所となっており、非常用電源の確保や空調、マンホールトイレの整備や井戸水の利用(飲用不可)など避難者の生活環境に配慮した施設となっています。また、公園内のスポーツ広場は、

航空輸送や救援物資の空輸を円滑に行うためのヘリポートとしても位置づけられています。公園内の管理棟は大規模災害時、町民の要望によりペットと飼い主が同じ空間で避難できる「ペット同伴専用避難所」として運用します。

### 3 光の森防災広場

公園内に耐震性貯水槽や井戸ポンプ、防災備蓄棟を整備し、指定緊急避難場所として指定しています。防災備蓄棟内は、防災センターと同様にトラックバスを整備し、支援物資の積み込み・積み下ろしがスムーズに行えるようになっています。



#### 輸送ルートの確保

町周辺および町内の物資輸送路の確保を目的とした「菊陽空港線」の延伸など、広域的な防災ネットワークの強化を図っています。特に近年世界的半導体企業の進出により国や県とも連携しながら、過去に類を見ない速さで道路ネットワークの整備を進めています。

#### 広がる相互応援のネットワーク

大規模災害時には、町単独での対応には限界があります。この10年で、町は他自治体や民間企業との災害時応援協定を大幅に拡充しました。

**自治体間：**大阪府豊中市や鹿児島県屋久島町など、遠方の自治体とも相互応援協定を締結し、同時被災を避けた支援体制を構築しています。

**民間協力：**商業施設との物資供給協定、物流業者との輸送協定、さらにはドローンを活用した情報収集に関する協定など、多角的な支援体制の確立を図っています。

# あの日を忘れない

## 一町を襲った未曾有の揺れと10年の取り組み



#### 菊陽町における熊本地震の記録

町では4月14日の前震で震度5強、16日の本震で震度6弱を観測しました。わずか28時間の間に強い揺れが2度発生し、町内全域で甚大な被害が生じました。

住家被害：全壊15棟、大規模半壊66棟、半壊605棟、一部損壊5,101棟

人的被害：重傷者14人、さらに、避難生活などによる災害関連死として6人が亡くなりました。

避難状況：本震直後のピーク時には、町人口の約20%にあたる最大約8千人が避難所に身を寄せました。

古閑原での被害状況



役場前に設置された災害対策本部

#### 屋外に設置された災害対策本部

熊本地震では、町役場庁舎自体が被災し、一時的に使用不能となりました。そのため、災害対策本部を屋外に設置せざるを得ないという異例の事態となり、本部機能の維持に大きな課題を残しました。

この経験は、後の「防災センター」整備に向けた重要な教訓となりました。



支援物資を運び出す学生ボランティア

#### 災害に強いまちづくり

熊本地震からの復旧・復興を進める中で、緊急性の高い事業を具体化し、災害に強いまちづくりを実現するために、町は、平成29年12月「菊陽町復興まちづくり計画」を策定しました。

地震後の10年間、町は更なる防災力の向上のため、町役場を中心とした防災拠点や防災公園(広場)の整備、避難所の機能強化などに取り組んできました。

# 災害関連死0を目指す

## 「車中避難」という教訓

熊本地震では、余震への恐怖やプライベートの確保から、多くの町民が自家用車での避難を選択しました。震災後のアンケートでは避難形態の5割以上が車中泊となり、渋滞の発生やエコノミークラス症候群のリスクといった課題が浮き彫りとなりました。これを受け、町では駐車場を活用した屋外避難スペースの確保や、車中泊避難者への情報伝達手段の検討を進めていきます。

## 避難所の質的向上と支援物資の備蓄強化

避難生活が長期化しても、健康を維持し、尊厳を持って過ごせる環境づくりを力を入れていきます。**避難所のWi-Fi整備**…災害時はテレビ・ラジオに加え、インターネットが重要な情報源になります。Wi-Fiがあることで、避難者が自分のスマートフォンで気象、避難に関する情報、安否情報などを確認できます。また、通信キャリアの回線が混雑している場合でも、避難所のWi-Fiを使うことで情報取得が容易になります。避難所へのWi-Fi整備を逐次進めていきます。



福祉避難所開設訓練



戸別受信機



やさしいにほんご



Facebookはこちら



Instagramはこちら

**要配慮者へのきめ細やかな支援**  
高齢者や障がい者、妊産婦など、特に配慮が必要な人々のために、指定避難所とは別に「福祉避難所」の整備を推進しています。指定福祉避難所だけでなく民間の社会福祉施設なども協定を結び、専門的なケアが受けられるよう体制や設備を順次整えています。  
高齢者の逃げ遅れを防止するため、防災無線の聴取が困難な75歳以上のみの世帯を対象に戸別受信機の貸与を行っています。  
また、外国人町民への対応として、WEBハザードマップの多言語化や「やさしいにほんご」を活用した情報発信などを行っています。

# 防災の主役はあなたです

## 「自助・共助・公助」の連携

「自らの身の安全は自らが守る(自助)」「自分たちの地域は自分たちで守る(共助)」そして行政による「公助」。この3つが効果的に噛み合うことで、地域の防災力は最大化します。行政の力には限界があり、震災直後の救出活動や避難所運営において、住民同士の助け合いがいかに重要であることを再認識しました。

## 地域防災リーダーの育成

町では、地域の防災活動を牽引する「防災士」の育成を積極的に支援しています。自治会や自主防災組織において、防災士を中心とした避難訓練や、地区防災計画の策定など地域防災力の向上を期待しています。

## 今、私たちにできること —備えの再点検—

10年の節目に、ご家庭での備えを改めて確認しましょう。  
**食料・飲料水の確保**…最低3日分(推奨1週間分)の備蓄を。日頃の食品

を多めに買い置く「ローリングストック」が有効です。  
**情報の入手**…「きくよう安心メール」や町公式LINEへの登録、防災行政無線の聞き取り確認を。災害時はSNSで真偽不明の情報が拡散す

るため、町が発信する正確な情報を確認してください。  
**携帯トイレの備蓄**…水洗トイレは断水、配水管の破断など地震に対して脆弱です。各家庭で1人当たり5回、3日分を備蓄しましょう。

**マイ・タイムラインの作成**…災害時に「いつ」「誰が」「何をするか」を家族で話し合い、行動計画や連絡方法(災害伝言ダイヤルなど)を決めておきましょう。

### 非常時持出品(例)

情報端末	救急医療品	貴重品
<input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 電池(多めに用意) <input type="checkbox"/> スマートフォン	<input type="checkbox"/> 常備薬 <input type="checkbox"/> 傷薬 <input type="checkbox"/> かせ薬 <input type="checkbox"/> 鎮痛剤 <input type="checkbox"/> 胃腸薬 <input type="checkbox"/> 絆創膏 <input type="checkbox"/> マスク	<input type="checkbox"/> 現金 <input type="checkbox"/> 印鑑 <input type="checkbox"/> 健康保険証の情報がかかるもの <input type="checkbox"/> 預金通帳 <input type="checkbox"/> 運転免許証 <input type="checkbox"/> 権利証書
懐中電灯	非常食など	その他
<input type="checkbox"/> 懐中電灯(できれば1人にひとつ) <input type="checkbox"/> 電池(多めに用意)	火を過ぎさないで食べられるもの、食器など <input type="checkbox"/> 非常用食品 <input type="checkbox"/> ミネラルウォーター	<input type="checkbox"/> 衣類(下着・上着など) <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> 離乳食 <input type="checkbox"/> ウエットティッシュ <input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> ラップフィルム(止血や食器にかぶせて使う) <input type="checkbox"/> 防災マップ <input type="checkbox"/> ライター <input type="checkbox"/> モバイルバッテリー <input type="checkbox"/> 携帯トイレ <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 粉ミルク <input type="checkbox"/> 紙おむつ <input type="checkbox"/> カップ

### 非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるようにチェック☑しましょう。

飲料水	非常食品	燃料
<input type="checkbox"/> 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安) <input type="checkbox"/> 貯水した防災タンクなど	<input type="checkbox"/> お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利) <input type="checkbox"/> 缶詰・レトルト食品 <input type="checkbox"/> 梅干し・調味料など <input type="checkbox"/> ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)	<input type="checkbox"/> 卓上コンロ <input type="checkbox"/> ガスボンベ <input type="checkbox"/> 固形燃料
その他		
<input type="checkbox"/> 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水) <input type="checkbox"/> 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど <input type="checkbox"/> 調理器具(なべ・やかんなど) <input type="checkbox"/> パケツ・各種アウトドア用品など <input type="checkbox"/> 携帯トイレ(1人1日5個)		

## 災害に強い「ともに輝き成長し続けるまち」へ

私たちは10年前の苦難を乗り越え、より強く、より優しい町へと進化してきました。しかし、地震はいつかまた必ずやってきます。この10年の教訓を胸に、誰もが安心して暮らせる菊陽町の未来を、共に創っていきましょう。



町公式LINEはこちら